

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	市民活動コーディネート講座		
事業の実施者	横浜市立大学地域貢献センター		
	横浜市		
事業の目的	様々な市民が様々な場所で地域的・社会的課題の解決のために市民活動を行える環境づくりを行う		
事業の内容	市民活動コーディネート講座の開催（全4回）		
役割及び責任分担等	事業項目	市大地域貢献センターの役割	市の役割
	講座の企画に関すること	講座の企画及び実施に係る各種調整	1 講座の企画及び実施 2 講師の選定・連絡・調整 3 講座開催場所の確保
	講座の広報に関すること	1 広報物の作成 2 横浜市立大学ウェブサイト、への掲載、学内での配架等による市民への広報	1 広報物の作成への協力 2 各区局への広報・各種調整 3 関連施設への広報・各種調整
	講座の実施に関すること	1 参加申込者の申込受付及び参加申込者への案内 2 参加申込者の取りまとめ 3 配布資料の印刷	1 講座の実施における各種事務 2 講座開催場所に係る費用負担 3 講師謝金に係る費用負担
実施期間	平成 27 年 6 月 30 日から平成 27 年 12 月 31 日		

記入日	平成 28 年 3 月 31 日
記入者	<ul style="list-style-type: none"> ・団体等名： 横浜市立大学 地域貢献センター ・記入責任者 氏名： 齊藤 亜紀子 連絡先： 045-787-8930
	<ul style="list-style-type: none"> ・部署名： 横浜市市民局市民協働推進部 市民活動支援課 ・記入責任者 氏名： 佐藤 成美 連絡先： 045-227-7915

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行います。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		市大地域貢献センター	横浜市
1	自分たちが行う事業の目的についてよく話し合うことができましたか。	A	B
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A	B

②事業実施段階

		市大地域貢献センター	横浜市
1	お互いが対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
3	事業の広報などについて、ホームページ等の様々な広報媒体を使って市民に発信することができましたか。	A	A
4	事業を進めるうえで問題等が発生した際に話し合い、解決することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		市大地域貢献センター	横浜市
1	受益者が満足を得られたかどうかについて、確認することができたか。	A	A
2	期待された事業成果を得られることができたか。	B	A

自由記入欄

<市大地域貢献センター>

各講師や企画監修者の趣向を凝らした内容により、アンケート結果の満足度が高い講座となりました。お互いに毎回運営に工夫をしつつ進められたことも、プラスに働いた要因だと考えています。欠席者が毎回全体の約2割強だったこと等の課題もありますが、要因を検討し（平日の夜開催だと仕事でなかなか出席できない等）次回に活かしていきたいと考えています。

<横浜市>

広報や講座当日の準備などお互いの役割分担をこえ連携して実施したことで、円滑に講座を実施することができました。講座終了後には双方で振り返りを行い、講座の効果（今回の様々な場所を巡りながらの講座は参加者がいろいろな視点に触れる機会となったこと等）や、次年度の開催に向けて検討すべき点（プログラムの内容や時間配分・対象別の満足度等）を話し合いました。それらを踏まえ、今後は次年度の開催に向けともに企画を組んでいきます。